

年 組 名前：

問1

4月18日に、全国学力テストが行われました。山梨県内の参加校数と参加人数を教えてください。

参加校数：.....校

参加人数：.....人

問2

テストでは、どのような出題を重視し、どのように課題を考察させましたか。

.....  
出題を重視し

.....  
課題を考察させた。

問3

テストの結果は、いつ公表されますか。

.....

問4

2025年度からは、どのような方法でテストを実施しますか。

.....

問5

小学校の国語では、どのような問題で、どのような力を問いましたか。

・どのような問題：.....

・どのような力：.....

# 2教科で身近な出題

## 全国学テ 県内1万3000人参加

小学6年と中学3年の全員を対象にする文部科学省の「全国学力・学習状況調査」（全国学力テスト）が18日、一斉に行われ、山梨県内は約1万3千人がテストを受けた。国語と算数・数学の2教科を実施し、国公私立の小中計約2万8千校の約202万人が参加。複数の資料を読み解く出題を重視し、デジタル機器といった身近な題材に引きつけて課題を考察させた。都道府県別平均正答率などの結果は7月末に公表する。山梨県総合教育センターなどによると、県内は国公私立

の小学校168校、中学校85校が参加した。児童生徒の生活や学習の習慣を尋ねるアンケートは今回から学習端末を通じて答える方式を導入。全員に配られている端末が勉強に役立っているかといった質問項目があった。テストは従来通り紙の問題冊子と解答用紙を使用し、2025年度から一部教科で端末を使った新方式に移行する。

小学校国語では、2校の児童がメールや端末上の会話で交流する場面を設定し、解答に必要な情報を整理する力を問うた。中学校国語の題材としては、インターネットの閲覧履歴解析によって頻繁に検索する情報が表示されやすくなる「フィルターバブル現象」を取り上げた。小学校算数の大問の一つは「桜の開花日」がテーマ。円グラフや折れ線グラフを分析し、過去と現在の数値の違いなどを考えさせた。

〈共同〉〈小池直輝〉

(2024年4月19日付 山梨日日新聞 21面)